



# ノアの爽風



## 誕生日会

目指せ！ホームラン(´ー`)ノ  
ホームラン競争？

お誕生日

打ったー！  
スタンドめがけて一直線！

紙コップ起こし  
ゲ〜〜ム!(^\_^)!

どこのコップに入るかな〜!?  
入るとコップが起き上がるよ(\*^\_^\*)

カラオケ大会！  
自慢の美声を響かせて〜♪

### ～目次～

- 病院短信『これから・・・』 竹之内 幸子
- 看護日誌 池田 将平
- 作業療法科だより 宮原 瑞季
- 日常の一コマ 水村 夏代
- 今月のナナ『ナナ1歳8か月♥まだまだ子供』

### 6月の予定

- ◆ 誕生日会 各病棟にて
  - 1病棟: 14日(水) 14:30~
  - 2病棟: 15日(木) 14:00~
  - 3病棟: 16日(金) 14:00~



### 今月のナナ

ナナ1歳8か月♥まだまだ子供(>\_<)  
で〜す♥遊びたいよ〜♥  
外に出して〜よ〜(°Д°)  
花壇の前でナナニッコニコ(\*^\_^\*)



ナナニッコニコ♥

# 病院短信

看護部長 竹之内 幸子



くはダメだと教えられた感じがしました。当院には暴言暴力や不穏が著しい患者さんはいらっしゃいますが、どのように関わったら一番いいのか、対応の難しい患者さんにはどのようなか、カンファを何度もしながら師長や認知ケア委員を中心に、皆で考えながら進めていきたいと思っています。

『これから・・・』  
川越セントノア病院を10年前に退職してから、訪問看護を経て、またご縁があつて看護部長として戻ってきました。  
当時一緒に働いていたスタッフが今も3分の1ほど全く変わらず働いており、頼もしく感じました。  
コロナも下火になってきたとは言え、インフルエンザも3年ぶりに流行し、まだまだ油断はできません。面会の制限も続いています。感染対策は続けていきたいと思えます。  
昨今、病院や施設での高齢者への虐待というニュースを目にすることが残念ながら少なくありません。  
ニュースが出る度に入院されている患者さんのご家族様も、ここは大丈夫だろうかと心配されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私は一般病院はもちろんですが、精神、認知症病院で働くスタッフだからこそ、言葉使いや接し方に十分気を付けて貰いたいと思っています。  
私は子供の頃に読んだ「北風と太陽」というインソップ童話を思い出します。  
ある日、北風と太陽はどちらが旅人の上着を脱がすことができるか力比べをしました。北風は力で上着を吹き飛ばそうとしましたが、風と寒さで逆に旅人は上着を押さえてしまっています。  
一方太陽が燦々と照り付けると、旅人はその暑さで自ら上着を脱いでしまうというお話で、結果は太陽の勝ちのようです。様々な解釈はあるのですが、私にはなんでも無理矢理に、力ず

また、どの病院においても患者さんの話を静かに聞いて寄り添った仕事をしたいと希望して誰もが面接に来ます。ですが、業務が忙しくてゆっくりと話ができない、おむつ交換や入浴介助などで腰痛が足りないなど体力に不安があり、退職するスタッフも少なくありません。  
離職が増えないような働き方の工夫も必要です。働きやすい職場であり、患者さんが安心して入院生活を送れる様な場所作りをスタッフと供に築いていけたらと思っています。  
患者さんの感情を表出する場、それを受け止めるには看護師、介護者の存在が必要ですが、そして、認知症の「人」と接することができ、それを改めて振り返る必要があります。これからは皆で考えていきたいと思えます。



# 日常の一コマ



今月は恵美子さん（94歳）の一コマです。東京都で5人兄弟の4番目として生まれました。女学校卒業後は事務員として勤め、25歳の時にお見合い結婚され、一女に恵まれました。恵美子さんは20代と50代の時に大病を患い、また、ご主人も59歳で他界してしまい、大きな支えを失った悲しみに暮れる日々だったそうです。しかし、元々明るい性格で頑張り屋、話好きな恵美子さんはその後立ち直り、旅行やゴルフ・編み物などを楽しんでこられ、特にゴルフは81歳までプレーしていました。「やさしくておしゃれが大好きな母できれいな洋服を作ってくれたり、父母と旅行に出かけたりとても素敵な母でした」と娘さんが語ってくれました。

そんな恵美子さんも84歳頃から会話をすっかり忘れてしまうようになり、検査でMC I（正常と認知症の間）と診断され、89歳頃からの数年で物忘れが急激に増え、内服薬の管理も娘さんがするようになりました。93歳の時大腿骨骨折で入院し手術を受けた後から、大声頻回となりせん妄（時間や場所などが急激にわからなくなる）がみられました。退院し自宅に戻った直後に心不全で再び入院することとなりました。心不全症状は改善されましたが自分の状況が分からなくなってしまい在宅介護も困難となり、R4年2月当院にてアルツハイマー型認知症と診断され、ご入院となりました。

明るくて話好きな恵美子さんは入院後も同席の患者さんたちと和気あいあいと話を楽しんでおられます。そして、ご主人と間違えていらっしゃるのか？「パパ、パパ」と隣の患者さんと嬉しそうに話をされています。また、頑張り屋の恵美子さんは現在車イスを使用していますが、トイレなどは手すりを握ってしっかりと立ち上がることができます。このように楽しく逞しく過ごされている恵美子さんです

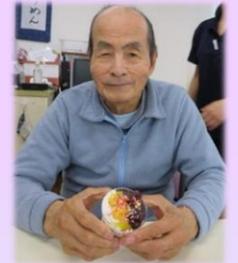


が、時々不眠になることがあり、そんな時はスタッフと一緒に恵美子さんの好きな食べ物の名前『おいなりさん・海苔巻き・うなぎ・チョコ・ウイスキーボンボン』などを挙げていくといつの間にか眠ってしまいます。そんな素敵な恵美子さんがこれからも楽しく過ごせるよう、職員一同お手伝いしたいと思います。

1病棟 介護主任 水村 夏代

# 作業療法科だより

作業療法士 宮原 瑞季



満開だった桜の花びらは散り、いつの間にか葉桜の季節となってしまいました。当院の庭や畑も緑が茂り、夏らしさを感じられるころとなりました。  
先日作業療法の活動の一環として皆様と一緒にパフェ作りを行いました。参加して下さった皆様には、果物のカットや生クリームの泡立てなど準備から手伝っていただきました。初めて泡立て前の生クリームを見ると「いつも出来上がった物しかみていないから本当に出来るのかしら」と心配される声や、実際に泡だて器を使い「疲れた」「難しい」という感想もいただきました。途中電動ミキサーを用いた際には「科学の発展ってすごいね」とびっくりされる方もいらっしゃいました。



準備した材料を各々盛り付けてオリジナルのパフェが完成すると、コーヒー・紅茶を用意し、皆様と喫茶店気分を味わいました。当時通っていた喫茶店の思い出話を聴かせてくださるなど、素敵な時間を過ごすことが出来ました。「またやってみたい」「今度はしょっぱい系もいいよね」など様々な意見を出して下さりました。引き続き皆様楽しんでいただける活動を提供していきたいと思えます。

# 看護日誌

1病棟 看護師 池田 将平



気温の寒暖差が多かった5月も終わり、6月といえば梅雨の時期です。梅雨は植物にとってはよい季節ですが、人間にとっては非常に不快で色々な病気が発症しやすくなります。多湿な状態での体調不良、熱中症があります。  
真夏はもちろんですが、梅雨に入る6月も熱中症が起こりやすい時期になります。6月は体がまだ暑さに慣れておらず、急な気温上昇に体温調節機能が追いつかないからです。高齢者は、暑さや喉の渇きを自覚しづらくなり、暑いと感じるほど高温の部屋でも、暑さに気付かずに長時間過ごしてしまい、熱中症になることがあります。こまめな水分摂取と室温調整をお願い致します。  
梅雨は、精神的、身体的にも不快な季節です。5月によく起こる5月病が改善せずそのまま梅雨の時期に悪化し、湿度が高い梅雨時期の6月は、発汗による体温調整や水分代謝がしにくい状態になりそのほか、湿度故にカビやこの時期流行りやすい食中毒等もあります。注意しましょう。

